

令和5年度病害虫発生情報第2号

令和5年9月22日
千葉県農林総合研究センター長

イネ縞葉枯病とヒメトビウンカの発生状況について

～来年作でのまん延予防のために再生株の早期耕うん、ほ場周辺の除草が有効～

1 発生の経過

- (1) 本病（写真1）は2008年頃から関東で発生が拡大しており、千葉県でも2014年以降発生が見られている。
- (2) 本年は7月下旬の調査において、調査対象70地点のうち11地点で本病の発生が確認され、発病株率は過去10年と比較して2番目に高く（図1）、東葛飾地域で特に高かった（図2）。また、平年では発生がほぼ見られない印旛、香取、海匝及び山武地域でも発生が見られた。発生ほ場の平均発病株率は8.0%（ほ場別最高発病株率は20%）であった。
- (3) 一方、本病を媒介するヒメトビウンカ（写真2）捕獲成幼虫数は過去10年と比較して最も多く（図3）、千葉地域を除く9地域で平年以上であった（図4）。



写真1 出穂期の病徴（穂の出すくみ）



写真2 イネ縞葉枯ウイルスを媒介するヒメトビウンカ（左：雌成虫、中、右：幼虫）

イネ縞葉枯病の総合防除マニュアル（URL: https://ml-wiki.sys.affrc.go.jp/rsv_web/manual/start）（農研機構）より引用

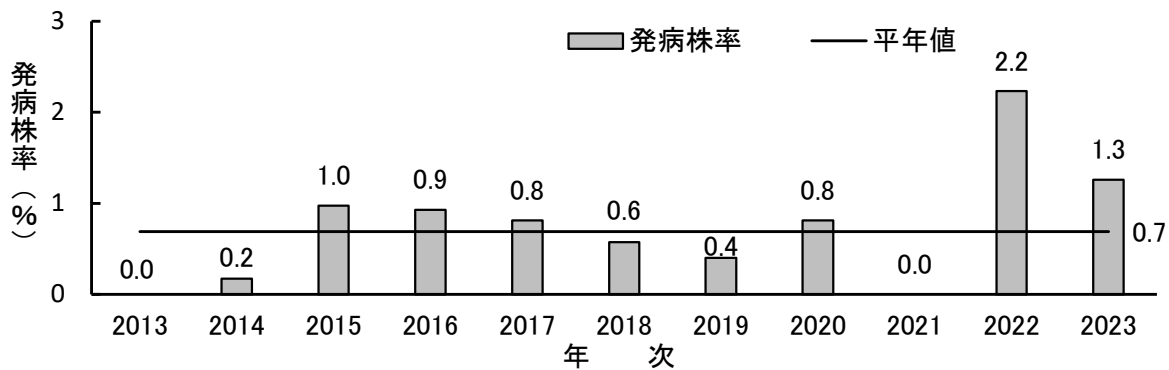


図1 7月下旬における縞葉枯病の年次別発病株率

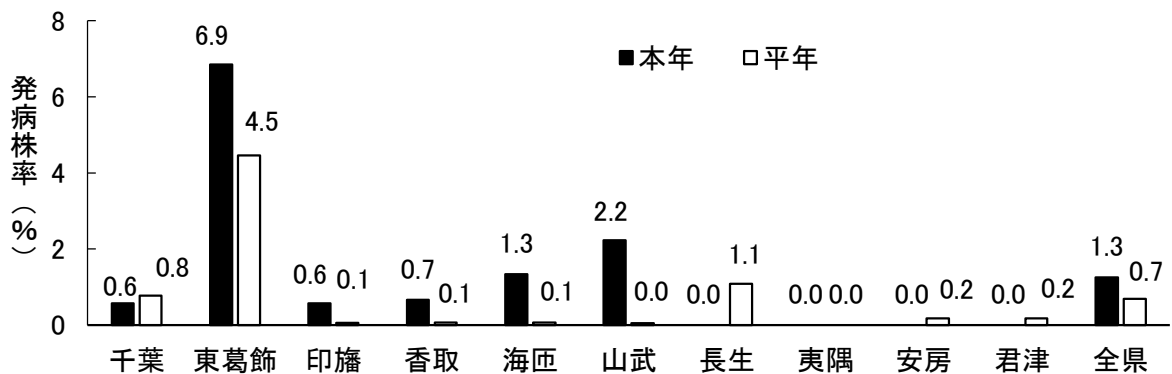


図2 2023年7月下旬における縞葉枯病の地域別発病株率

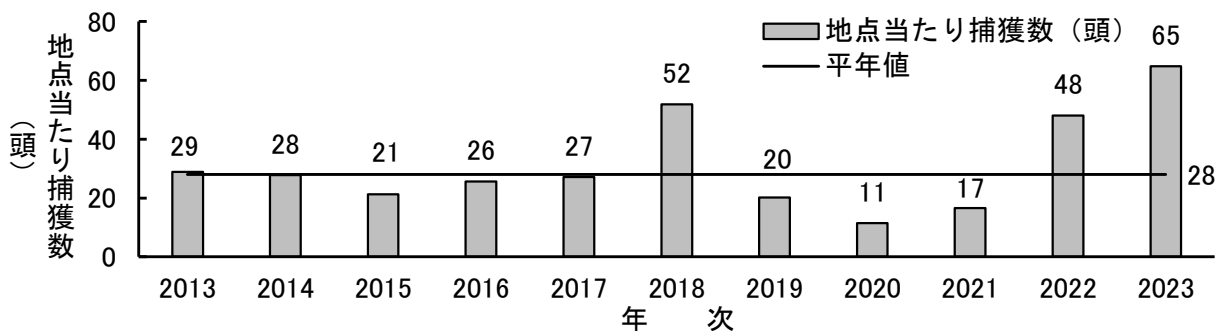


図3 ヒメトビウンカ成幼虫の年次別捕獲数（7月下旬、本田20回振りすくい取り調査）

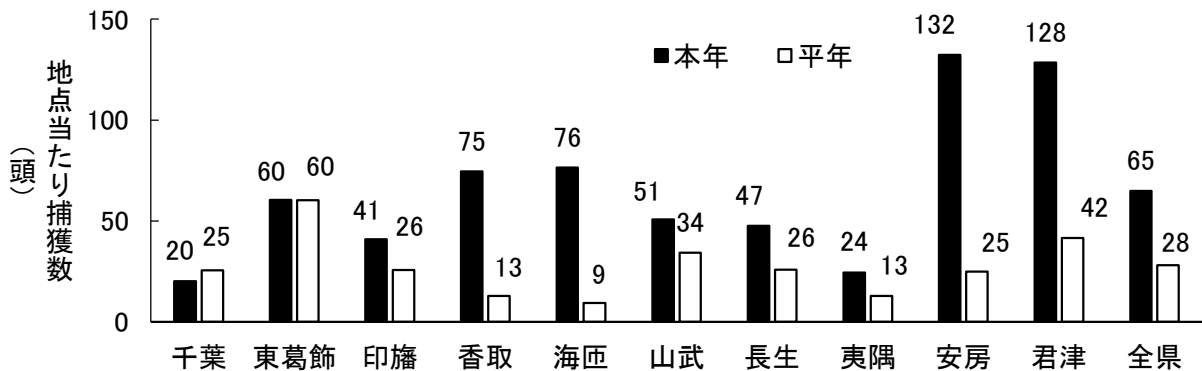


図4 ヒメトビウンカ成幼虫の地域別捕獲数（2023年7月下旬、本田20回振りすくい取り調査）

2 発生の特徴

- (1) 本病はイネ縞葉枯ウイルスを保有したヒメトビウンカが吸汁することでイネに感染する。越冬した幼虫が3月上中旬ころから成虫となり、4月上中旬ころをピークにムギほ場などに侵入し、増殖する際にウイルスが経卵伝染する。次世代の幼虫は5月上中旬ころから発生し、移植後の水田に侵入する。ヒメトビウンカはムギ類で増殖しやすく、ムギ類が栽培される地域では発生量が多くなる傾向がある。
- (2) 移植後の生育初期に感染すると葉に黄緑色～黄白色の斑紋が縞状に生じたり新葉が巻いて垂れ下がって枯死することにより茎数が減少する（写真3）。また、生育中期に感染すると穂の出すくみ（写真1）や奇形となり穂数減少などの被害が出る。
- (3) イネの生育段階が早いほど本病への感受性が高く、早期に罹病するほど分けつ数の減少や枯死により減収が大きくなる。また、幼穂形成期以降の感染では、発病せず無病徴感染となることがある。
- (4) 感染株を収穫した後の再生株では、葉に葉脈に沿った不明瞭な黄色い縞状の病斑や奇形穂などの病徴が現れる（写真4～6）。発病株率が上昇すると、ヒメトビウンカが感染イネを吸汁する機会が増え、保毒虫率も急激に上昇するため、次作で本病がまん延する恐れがある。



写真3 分けつ期の病徴

葉が黄緑色～黄白色に退色し、巻いて垂れ下がり、茎が枯死する



写真4 再生株の病徴

葉脈に沿った不明瞭な黄色い縞状の病斑



写真5 再生株の病徴

穂の出すくみ



写真6 再生株の病徴

病徴（葉の黄化）がまとまってみられる

3 防除対策

- (1) 収穫後に発生する再生株はヒメトビウンカの増殖源やウイルスの保毒源となるため、耕うんを行って株を土中に埋没させるなど早期に処分する。
- (2) ヒメトビウンカの越冬場所を減らすため、ほ場周辺の雑草（特にイネ科雑草）を除去する。
- (3) 前年に縞葉枯病が多発したほ場で栽培する場合、表を参考にフルピリミン等を含む剤を苗箱処理する。

表 フルピリミンを含む主な苗箱処理剤

薬剤名	使用量	使用時期	使用方法
リディアNT 箱粒剤	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱あたり 50g	は種前	育苗箱の床土に均一に混和する。
	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱あたり 50g	は種時覆土前 ～移植当日	育苗箱の上から均一に散布する。
	高密度には種する場合は1kg/10a(育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱あたり50～100g)	移植3日前～ 移植当日	
Dr. オリゼ リディア箱 粒剤	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱あたり 50g	移植7日前～ 移植当日	育苗箱の上から均一に散布する。
	高密度には種する場合は1kg/10a(育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱あたり50～100g)	移植3日前～ 移植当日	
	1kg/10a	移植時	側条施用

- ・病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>

- ・薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。

<https://pesticide.maff.go.jp/>

問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町 180 番地 1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp

